

# 鶴岡市都沢湿地のアメリカザリガニ防除と捕獲個体の有効活用

鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 上山剛司

## 1. はじめに

鶴岡市自然学習交流館ほとりあは、2012年にラムサール条約登録湿地である大山下池の畔に都沢湿地の再生活動の拠点として開館した。当館では湿地再生の課題である外来生物の増殖の解決のために、特定外来生物のウシガエルと条件付特定外来生物であるアメリカザリガニ（以下、ザリガニ）の防除を行い、かつて庄内平野に広がっていた湿地環境の再生を目指している。また、活動を進める中では、希薄になった人と湿地環境との関係の再構築をはかれるように幅広い年齢層や目的を持つ多様なステークホルダーが活動に参画できる仕組みづくりを意識している。

## 2. アメリカザリガニの防除効果

2012年から開始した防除活動の結果、開始当初よりもウシガエル、ザリガニともにCPUE\*値が減少し、両種の生息密度は低下傾向にある。また、2021年にはザリガニの全捕獲数の50%以上が体長6cm以下となり、体サイズの小型化も進んでいる。本来、ザリガニにとってウシガエルの減少は捕食者の減少を意味し、その生息数は増加すると推察される。しかし、当館で取り組んでいるザリガニ捕獲大作戦イベント等の人為的な捕獲圧の影響が大きく、ザリガニの生息数は増加せず、減少しているのではないかと考えられる。

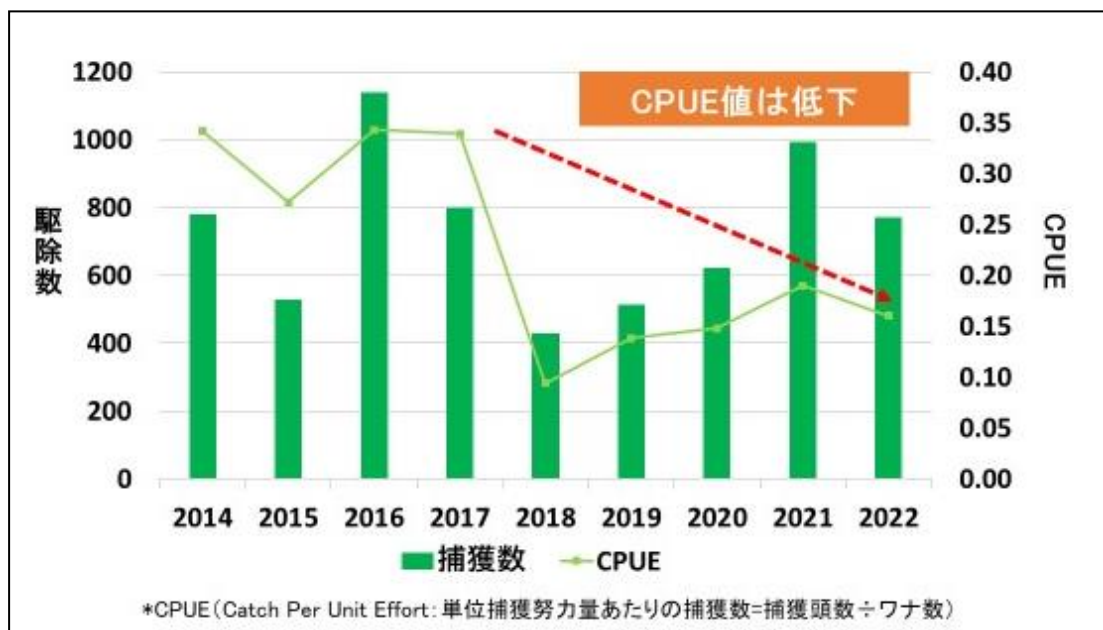


図1. 2014～2022年度のウシガエル成体の駆除数とCPUE値の変化

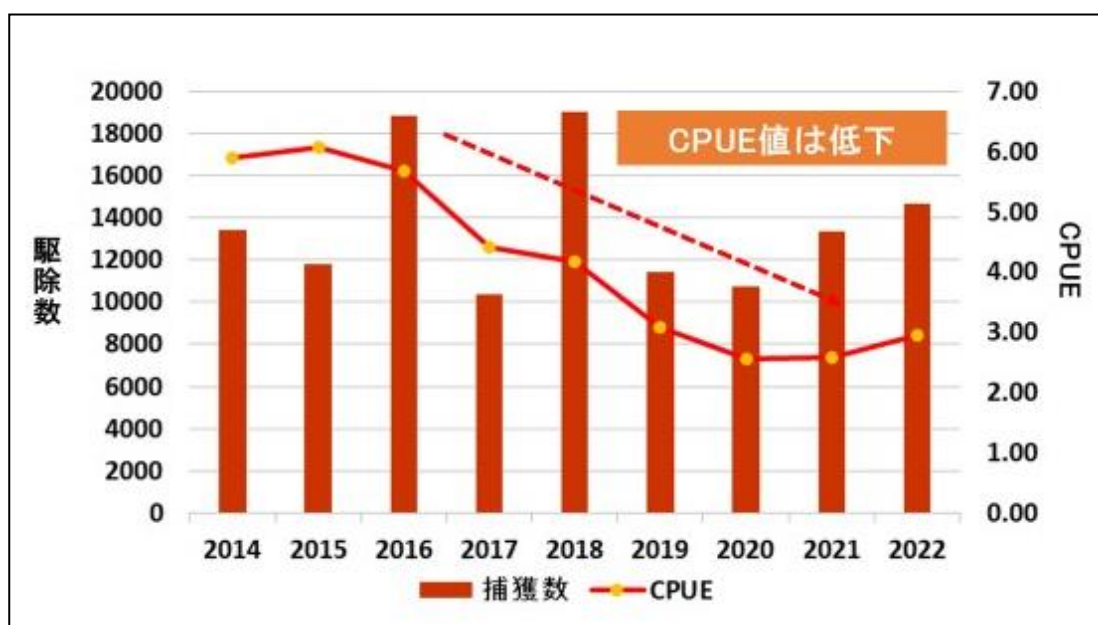


図2. 2014～2022 年度のアメリカザリガニの駆除数と CPUE 値の変化

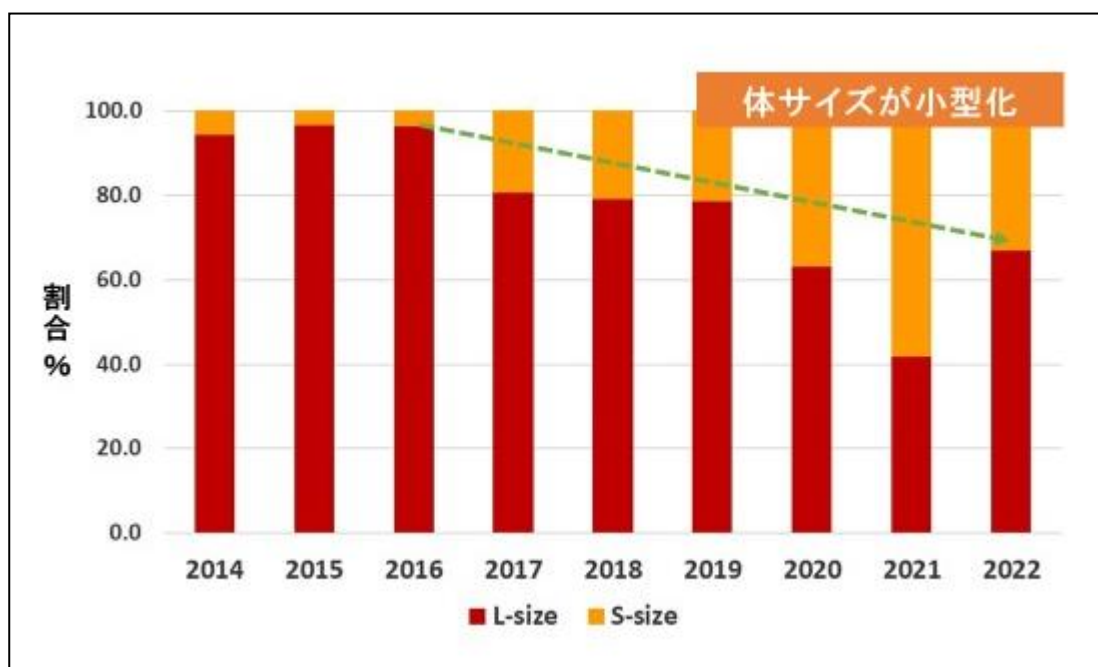


図3. 2014～2022 年度のアメリカザリガニの体サイズの変化

### 3. ザリガニの資源活用とこれから

2014 年、駆除個体の資源活用を目的に市内の飲食店へ食材として提供する「食べて環境保全」プロジェクトを開始した。また、施設の玄関先に外来生物回収ボックスを設置し、館内展示と合わせて、多くの市民が外来生物の資源活用について学ぶ機会

を創出している。2020年には防御効果による体サイズの変化や食材の利用促進のために、保存と加工が可能なザリガニの粉末を地域の加工会社と開発した。ザリガニの食材提供は、2014～2022年までの9年間で延べ20店舗、約500kgに上るが、食材利用はもっとも利用された2021年でも全捕獲数の約10%であった。そこで、当館では外来生物をはじめとする環境問題の解決には、実践者が自然環境を地域の重要な資源と捉え、地域の産業や人材を巻き込み、地域のチカラで解決していく



図4. 地域の加工所にて作製したザリガニ粉末「ざりっ粉」

ことが重要だと改めて再認識した。現在、新たなステークホルダーとなった地域の養鶏場や大学機関とともに、ザリガニを活用したニワトリの飼料化に取り組み、ザリガニの間接的な資源の可能性について検討している。

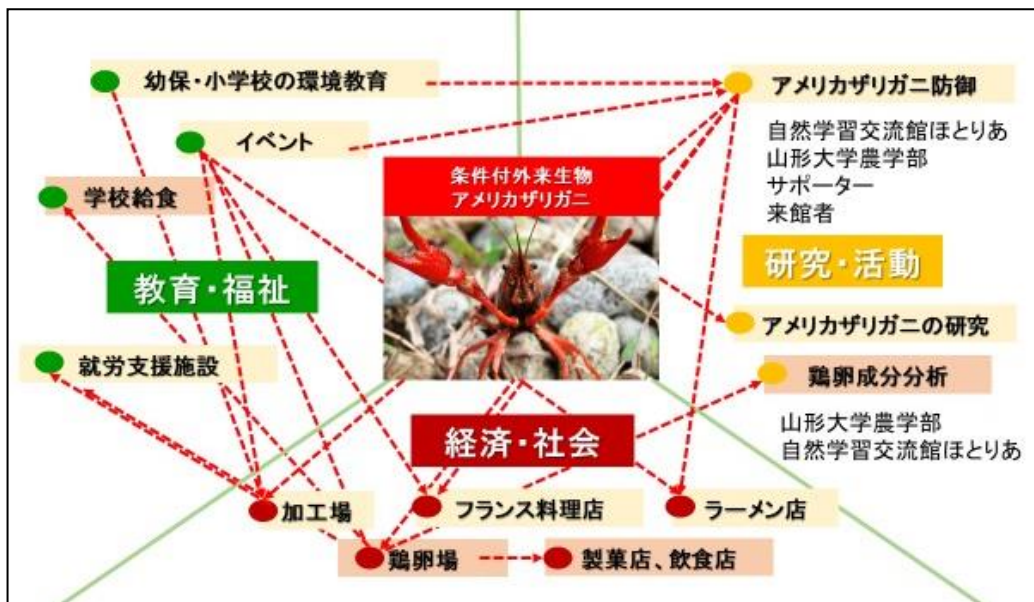


図5. アメリカザリガニの資源活用による「繋がりマップ」

\*CPUE (Catch Per Unit Effort : 単位捕獲努力量あたりの捕獲数=捕獲頭数÷ワナ数)

キーワード：湿地再生、条件付特定外来生物、アメリカザリガニ、食べて環境保全、資源活用